

毛無峠の県境標識における 観光に配慮した取組について

関口 遵

群馬県 県土整備部 中之条土木事務所 (〒377-0424 群馬県吾妻郡中之条町大字中之条町709-1)

毛無峠の県境標識は風雪により劣化が進行し、判読性が低下しており、安全確保の観点から機能回復が必要となった。一方、当該標識は荒涼とした景観と相まって観光的注目を集め、独自の「秘境感」を形成している。以上を踏まえ、県境標識および通行止め標識の更新方法を比較検討し、観光価値の低下を抑える工夫を施した。本稿では検討経緯と実施内容、ならびに反響についての整理結果を報告する。

キーワード 毛無峠、県境標識、観光資源、安全確保、ダメージ加工

1. はじめに

群馬県吾妻郡嬭恋村と長野県高山村の県境に位置する毛無峠は、標高約1,800mの高地にある。当該地に設置された「群馬県」の県境標識は、長年の風雪により経年劣化が進行していたが、その外観と周辺の山岳景観が相まって、標識が観光的な注目を集める状況となっていた(図-1)。

一方で、経年劣化に伴う判読性の低下により、道路管理者として標識の機能回復(安全確保)が必要となった。しかし通常の更新(新品への交換)は、観光的価値の低下を招くおそれがあり、更新にあたっては相反する条件への対応が課題となった。

本稿は、県境標識および通行止め標識の更新に関し、更新方法の比較検討から施工、事後の反響把握までの一連の取組について報告する。



図-1 毛無峠県境標識

2. 観光価値と安全確保

(1) 観光資源化

毛無峠の群馬県側には小串鉦山跡へ至る道が続くが、閉山後は十分な安全対策が整備されていないことから、

県境付近より先は立入禁止として管理されている。

現地には、①県境標識、②通行止め標識、③立入禁止を伝える標識の3基が設置されており、本取組の更新対象は劣化している①県境標識および②通行止め標識の2基である。

毛無峠では、劣化した標識と荒涼とした風景の組み合わせが、インターネット上で話題となった、群馬県を秘境的に表現する俗称「グンマー帝国」のイメージと結びつき、標識そのものが、秘境グンマー帝国の入口として「見に行く対象」として注目されるようになった。劣化の具合もまた、毛無峠の「秘境感」形成の一因となっていた。

(2) 更新決定

2016年頃は文字が辛うじて判読できたが、2024年には塗膜の剥離や変色が進み、判読困難となった(図-2)。

判読性の低下を放置すれば、標識情報が適切に伝達されず、通行者に必要な注意喚起も行えないため、道路管理者として安全確保・管理責任の観点から看過できない状況で、通常の更新では、毛無峠で形成されてきた「秘境感」が失われ、来訪者が期待する印象を損ね、誘客力や地域への波及効果が弱まる可能性があった。



図-2 標識劣化状況

以上より、更新の判断は難しかったものの、道路管理者として最優先すべきは通行者の安全確保であると判断し、標識の更新を実施し、機能回復を図る方針とした。また、更新に伴う観光価値の低下を可能な限り抑える必要があるため、更新を前提として、観光価値をできる限り維持する方法がないかを併せて検討することとした。

3. 対策の検討

(1) 比較検討案の策定

課題解決に向け、更新を前提とした3案を策定し比較検討を実施した。

- ① 通常更新案：標準的な仕様の新品標識に更新する。
- ② 新旧併設案：旧標識を現地に残置し、近傍に新品標識を設置する。
- ③ ダメージ加工案：新品標識に意図的な劣化表現を施し、従来の雰囲気再現する。

なお、本件は一般的な道路環境と異なり、現地は未舗装であり、高速走行や夜間走行が想定されにくい。来訪者は標識を目的として現地に立ち止まって確認・撮影するケースが多いことから、本検討では、遠方からの高速走行時の視認性よりも、現地における近距離での判読性および注意喚起の明確性を重視する前提で比較を行った。

(2) 各案の評価と選定

各案は、「表示機能」「観光価値」「維持管理」「国立公園」の4項目で評価した。(表-1)

評価段階は3段階(○：概ね満たす、△：一部満たさず課題が残る、×：満たさない)とし、更新対象を総合的に評価した。

「表示機能」：標識が必要情報を誤解なく伝達できる度合いを指す。

「観光価値」：景観との調和を保ち、観光価値を維持・向上させる度合いを指す。

「維持管理」：道路管理者として施設管理を合理的に継続できる度合いを指す。

「国立公園」：当該地が国立公園内に位置することから、自然公園法への適合性の度合いを指す。

	通常更新	新旧併設	ダメージ加工
表示機能	○	○	○
観光価値	△	○	○
維持管理	○	△	○
国立公園	○	×	○
総合評価	△	×	○

表-1 比較評価

表示機能については、いずれの案も判読性の回復が見込まれる。一方、観光価値の観点では、通常更新案は従来の雰囲気が失われる懸念が相対的に大きいと判断した。

また、新旧併設案およびダメージ加工案は、従来の観光価値を維持しやすい点を評価した。維持管理については、新旧併設案は管理対象が増えることが懸念された。さらに、各案について環境省などと協議した結果、標識の乱立を避けるためにも、新旧併設は許可できないと回答を受けた。

以上を踏まえ、機能回復を満たしつつ、意匠上の工夫により観光価値をできる限り維持できる案として、③ダメージ加工案を採用することとした。

4. 新標識の製作と施工

(1) 新標識の製作

ダメージ加工標識の製作にあたっては、旧標識の持つ雰囲気再現することを目的に、標識メーカー等とともに製作方法を検討した。新品標識に傷や剥離跡を物理的に付与する方法も検討したが、耐久性の観点から採用には至らなかった。最終的に、旧標識に見られた「かすれ」や「変色」などをグラフィックデザインで表現する方法を採用し、従来の風合いを残した標識を製作した(図-3)。



図-3 新標識デザイン

(2) 施工・公開

新標識への更新は、一般来訪者の安全確保および作業性の観点から、県道の冬季閉鎖期間中である2024年11月14日に実施した。標識の一般公開は、閉鎖解除日の2025年5月21日となった。



図-4 更新後標識

5. 反響整理

本取組の反響を把握するため、SNS上の反応および現地アンケート結果に加え、報道等の状況を整理した。

(1) SNS投稿データの分析

更新前後の注目度の変化を把握するため、SNS上における「毛無峠」に関する投稿出現数を調査した。更新前（2024年5～8月）の出現数831件に対し、更新後（2025年5～8月）は11,934件となり、約14倍に増加した。

また、更新後の投稿には、標識の意匠（ダメージ加工のデザイン）に言及する内容が多く確認され、肯定的な反応が拡散していた。これらから、ダメージ加工を含めた本更新の取組がSNS上で好意的に受け止められた状況を確認した。

(2) 現地アンケート調査

2025年9月に来訪者39名に対して現地アンケートを実施し、来訪者の居住地および来訪動機などを把握した。その結果、群馬県や東京都、神奈川県などの関東圏に加え東北・近畿等からの来訪者が確認され、全国各地からの来訪があることを分かった。（図-5）

また、「標識の更新」が来訪のきっかけになったかという設問では、回答者の44%が「きっかけになった」と回答した。これにより、本更新が全国規模の来訪行動に一定の影響を与えたことを示唆された。

Q 本日はどこからお越しになりましたか？

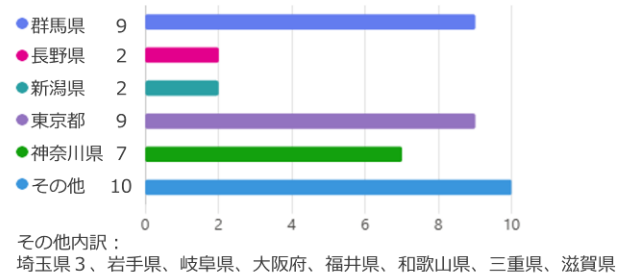


図- 5 アンケート結果

(3) 波及効果

本取組は新聞・テレビ等で報道され、新標識への更新が紹介された。加えて、地元観光協会が企画した毛無峠山歩きイベントにおいて、短時間で予約定員に達した事例も見られ、更新が話題化することで周辺活動にも波及した状況がうかがえた。

6. 終わりに

安全確保を目的として県境標識および通行止め標識の更新を決定したうえで、観光価値の低下を最小化するためダメージ加工を採用し更新を実施した。更新後のSNS分析では、ダメージ加工の意匠に対する肯定的な反応が確認され、現地アンケートでも更新が来訪動機となった回答が得られた。こうした結果から、本取組は安全確保と観光価値の維持を両立する一例となったと考える。

謝辞：本取組を遂行するにあたり、ご協力いただいた関係機関及び施工関係者の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。